

テキスタイルフリーマガジン「m4」

m4

Textile freemagazine edited by Tama Art Univ.

Vol.9
2021SS

Take Free
0

第9号

「源とテキスタイル」

特別インタビュー

ニットクリエイター 蓮沼 千紘さん

CONTENTS

00 源

01 特別インタビュー

ニットクリエイター / 蓮沼 千紘さん

02 チェックの起源

03 テキスタイルの「源」点回帰

04 ランジェリーインマイハート

05 Origin of natural fibers

What is textile?

世の中に存在する服飾やインテリアなどの布地・織物、またその素材となる繊維質のもののことを指します。また、「テキスタイルデザイン」とは生地や繊維についてのデザイン（設計）のことで、柄はもちろん、素材や構造設計のことで配色などのビジュアルから機能性まで含むデザインを指し、私たちの生活において欠かせないものです。

What is mA?

mA（エムエー）は、多摩美術大学テキスタイルデザイン専攻の有志学生で発行しているテキスタイルフリーマガジンです。身の周りの様々なモノ・コトをテキスタイルデザインというクリエイティブな視点から、実際に見て聞いて感じ、探ったことをたくさんの方々に発信していきます。



nowartt Piece of The EARTH

人間のエゴにより、動物達を取り巻く環境は悪化する一方です。

その結果、絶滅危惧種が増えているという現実を、自然や動植物をモチーフとした テキスタイルデザインを通して知ってほしい。

それが nowartt Piece of The EARTH の想いです。

nowarttの考えるサステナブルな生き方とは、植物、動物、山、河、海や大地....。この地球上にあるすべてのものと“繋がり”“共存”していることを再認識すること。

nowarttは人間も含めて、すべては地球のひとつかけらだと考えています。それぞれのライフスタイルが異なるように1本では定義できませんが、難しく考え過ぎずに

nowarttのテキスタイルに触れたことで、老若男女の人々が環境や未来のことを少しでも考えたり、具体的な行動を起こすきっかけになれば嬉しいのです。

nowartt Piece of The EARTHが世の中に広がることがその大きなきっかけになると私達は信じています。

ピースフルな気持ちで“共存”の輪が広がってほしい。そしてnowarttのスタイルやデザインによって、優しい気持ちになってほしい。

本当の豊かさとは地球と共存し続けることなのだと思います。

www.nowartt.com/pote.html

 nowartt

 nowartt_pote

STAFF 募集 info@otherwise.jp

アルバイト (デザインアシスタント)

Photoshop / Illustrator の操作スキル必須 / 勤務地: 池尻大橋 / 勤務時間: 1日4~5時間、週2~3日 / 交通費支給



源

1 川の水などの流れ出るもと。水源。

2 物事の起こりはじめるもと。起源。

（日本国語大辞典 第二版より引用）

水（み）の元、みなもと

水の流れ出る元、物事の起こりはじめる元の意味をもつ

今起きていること、あなたが強く思っていること

すべては元をたどれば何かがあるはず

その元にあるものはなんだろうか

その源は誰しも心の中にあり、現在、未来を生きる糧になり、まばゆく輝いている

今号では、心の中にあるエネルギーになっている源、ものづくりの源、

身の回りにあるテキスタイルの始まりの源にフォーカスしていく

——「アパレルという言葉に縛られず、
その時に編むべきだと感じたものを形にしています。」

そう語る蓮沼さんとニットとの出会いは偶然でした。ニットの可能性を探求し続ける彼女の制作に対する想いを、今号のテーマである「源」と交えてお話を伺いました。

私は文化服装学院のニットデザイン科を卒業しました。第一志望はアパレルデザイン科という、ファッションデザイナーを目指すコースでしたが、体調不良で進級試験を受けられず、就職率が100%という理由だけで併願していたニットデザイン科に行くことになりました。「ニットが昔から好きで」などと素直に言えないのですが、当時の私はニット科には本当に興味がなかったですね。むしろ、ニット自体に手芸などのほっこりとした印象を持っていて、言い方を変えたと、ファッショニ性が低いイメージがありました。（笑）

しかし学び始めてみるとニットデザインは糸一本から色や素材を選ぶことができ、自由度が高い表現法だと気がつきました。布はすでに存在しているものからお気に入りを見つけないといけないけれども、本当に思い掛けない偶然の出会いでしたが、ニットデザイン科に行ったことで、私の中でデザインすることが楽しい理由は色や素材を組み合わせるところにあると気が付きました。

思わぬ出会い

サステイナブルな制作がしたいと思ったことも要因の一つになりました。元々入社した際に三年間は勤めると決めていたんです。しかし、会社勤めだと、興味のある講演会があっても平日だと行けず、会社が理由で自分の行動の選択肢が狭まるというのがストレスでした。

私にも地球にも心地の良いものづくりを求めて

ちょうど入社して三年目で、時間を全て自分でコントロールできる方が自らの可能性に繋がるのではないかと気付きました。また、リサイクルブームが起き、エコなプロダクトのものが社会に増えていた時期でした。しかし自分は大量生産のアパレル会社の社員で、人気で追加発注したものがセール商品として並んでいるところを目にするのです。あの追加はなんだったのだろう、売れ残ったものはどこに行くのだろうと疑問を持ち、学んできたニットの技術をエコという切り口で役立てることができないのではないかと考えました。実際にニットは布に比べ、一本の糸から編み広げるので布を切った出る無駄な部分や縫代を捨てるということも無くエコなものだと感じています。

今も、サステイナブルがブームですが、時代の波だからと行動を起こすのでは意味がないと思うんです。日頃から自分や地球に心地がいいと思えるものを探してみてください。



蓮沼 千紘（はすぬま ちひろ）／ニットクリエイター

文化服装学院工科基礎科修了。

ハンドニットブランド〈an/eddy〉を手掛ける。

独自の世界観で、他に類を見ない作品は雑誌や舞台装飾、アーティストの衣装など幅広く起用されている他、サステイナブルな制作活動や暮らしが注目されている。

ニットの可能性を常に探求し型に捉われない制作で、活動の幅を広げている。

photo : Heiri Kojima



特別インタビュー

蓮沼 千紘 さん

空間を編む

ニットというとセーターなどの洋服が思い浮かびますが、私はニット・アパレルという認識は持っていません。洋服、アパレルという言葉に縛られずに、そのときに編むべきだと自分が感じたものをどんな形にしています。

2019年に初めてインテリアを制作しました。きっかけはNEWoMan様からの、くつろぎスペースをニットで作って欲しいという館内装飾のご依頼でした。クッションやランプシェード、ソファなどを制作し、見た方々から欲しい、居心地が良いと好評で、ニットによる色に囲まれた空間の需要を初めて体感しました。同時に、インテリア空間という新しい側面にニットの更なる可能性も感じました。ニットをさらに広く展開していきたいと思うきっかけになりました。

最近では舞台美術をニットで造形する初めての取り組みをしました。きっかけは演出家の方にNEWoManでの展示を見て頂いたことです。その方は、糸を使う大きい演出といえば糸をそのまま使うイメージで、少なくとも編むという手段で何かを作るといえるのは想像すらできなかったみたいです。しかし私と出会うことで、「編む」という手段を取り入れた舞台演出を思いついてくださりました。

普段の作品ではニットにライトが当たるとはあっても、舞台の照明が当たる

ことはありません。色が変わる照明を浴びてニットに変化が起きたり、動きが出たりということが舞台美術ならではのものです。塗料で塗ったものだと照明を浴びて跳ね返るのは色だけですが、ニットは網目で色や光が透けて、立体感が現れます。光が通った向こう側にも一枚一枚ニットがあったり、複雑に奥行があったり、そのニットの中で明かりの色と糸の色が混ざって別の色が生まれたりと、ニットが照明と関わるからこそその美しさがありました。これからも舞台という空間の場で「編む」という造形は活躍するのではないかなと思っています。

クリエイターとしての想い

私は普段目に見えないものを視覚化するイメージで制作をしています。特定の具象物から影響を受けることはありません。自分の感情や普段考えていることを掘り進めてテーマとして作品に落とし込む場合が多いです。例えば、どうして人間は体毛を剃るのに、ほかの動物の毛は着るのだろうか、死んであの世にいくと、この世があんな世になるのではないかなど、言葉で説明するのが難しいことをニットの世界観で表現してしまうのです。



ミュージカル BLOOM 美術

だからといって、あの世というテーマだからオバケを作るといった説明的なことはありません。そうしてしまうと受け取る人達の想像の余白を奪い取ってしまう気がするからです。私の作品をきっかけに得た刺激が人々の中の根源的な何かに応ずること、感覚的なマインドへのアプローチが出来るのではないかと考えています。自分が作品に気持ちを込めることができれば、見る人には何かが宿されていることや発信したい思いがしっかりと伝わりやすし、その瞬間に全て出なくても後から伝われば良いのです。例えば、ヴァンテージ商品を購入する時も歴史や国を知って好きという人もいます。ですが、この雰囲気はただ好きという人や使っていて心地がいいという人もいますよね。ただそれだけでいいのではないのでしょうか。私はそのような感覚的に惹かれるものを作りたいと思っています。

たとえ私にしかわからない感覚だったとしても、自分が納得して作った作品であれば、誰かに否定されたとしても関係ないと考えています。反対に、売れることを目的として制作した作品が、称賛されてもそれは全く嬉しくありません。自分が納得できる作品だからこそ存在する意味があるのです。自分の世界観で納得のいくものを展開すれば、他人の評価は後からついてくるものです。意見を押し殺すのでは無く自分自身を守り、私のものづくりを好きでいることを何よりも大切にしていきたいです。

私の源

自分のなかで何か反応するものを無作為にたくさんインプットすることが私のデザインの「源」です。

例えば、既存のデザインというのは、誰かが何かに影響を受け、思考して生まれているもので、それをいくらインプットしても、その源は自分ではありません。つまり、そこからインスパイアを受けるのではなく、何を見て何を感じ、どうしてそのように感じるのかという自分自身の源を見つめて、アウトプットすることが「デザイン」だと思うのです。作りたいモチーフがあり、それを勉強するという意識的な方法ではなく、気になったものを沢山インプットし、それが無意識的に溜まり何かのきっかけで引き出されてパツと思いつくといったやり方が良いと思います。そのような義務化しないインプットの数々が材料として源につながっています。また、偶然入ってきた情報によって色々な感情が芽生え、作品に影響し、面白いものがそれぞれから生まれます。そうすることで、世間的な良し悪しに関わらず堂々とこのデザインの発信源は私だと言い切れると思うのです。

また、制作を義務的に考えるのではなく、作りたいものか思い浮かんだら思いっきり作るというやり方も原動力の「源」になっていますね。作りたいものが浮かばなければいつ辞めてもいいですし、ニッ

トより他にもっと興味が沸くものができたらそれをやればいいと思っています。何年後どうなっていたいというのは特に無く、今やるべきことを一生懸命納得できる形でやれば必ず結果はついてくると考えています。逆に付度して手を抜くと、観た人にはそれが全力だと思われるのでなにもついてきません。だから毎回、今日の前にある仕事を全力でやることを大切にしています。観た人にはそれが必ず伝わりますからね。

日常生活では自分が快適に気分良く暮らす選択を大切にしています。それが日々の暮らしや制作のモチベーションの「源」に繋がりますね。しかし制作と生活の両立はとても難しく、決して丁寧な暮らしをしているとは言えません。ただ、視点を变える意識は常にもっています。例えば洗いが溜まって、やってみると案外すぐ終わったりしますよね。切羽詰まっている時こそ、あえて制作から洗いに意識を向けるという一瞬の切り替えがある方が集中できます。家事の時間を得られて贅沢だなど思うようにするとストレスも減って感じ方が変わります。以前は自宅の一室をアトリエにしていたのが、夫の協力もあり思い切って自宅とアトリエを別の場所にしてみました。強制的に制作時間を設けられるようになり、環境を変えることも結果的に気分良く暮らす選択に繋がりました。自分だけの空間を持つことで制作にも没頭できるし、夫と心地の良い距離感で生活しています。



『change over.』

学生は課題の期限もあり、やりたいことだけに力を注ぎ込むというのは難しいと思います。しかし、制限のある環境にいるからこそ、本当にやりたいことへの気持ちちははつきりすると私は考えています。何もかもがフリーダムになる前にそのような経験が得られるのが学生の良さだと思います。

私は学生の時に課題とブランドの両方をこなしていました。一方に迫われて別のことが疎かになっていたら格好良くないですし、全てをやりきる方が自分も納得出来るし手を抜かなかったことが自分の自信にも繋がります。フラストレーションを貯めることも、期限を設けられる環境も必要で大切なことだと思うのです。アパレル会社も実際に働いて業務形態を知ったから、向いてないとわかることができました。

つまり、向いてないから無駄だからと、いきなり全て自由にするのも一概に良いわけではないのです。苦しい経験をした人が持つ塞ぎ込まれていたパワーが在るからこそ、フリーランスになってそれが一気に爆発する事もあるでしょうし、だから何でも思い通りにならない状況も大切にしてください。

卒業後、経験のためにアパレル会社に一度就職しましたが、やはり自分の個性はこの会社では生かせないとわかりまし

学生の皆さんへ



NEWoMan 設営風景



NEWoMan 設営風景



『百花』



まにまに

た。しかし会社で働いていた時の経験から、洋服がどういう流れで出来上がるのか、どれだけの人がどういう仕事で関わっているのかといったことが知れました。またその経歴がフリーランスになった今の信憑性に繋がることもあります。なので、知ったかぶりして組織に入ることやめるより、まずは自ら苦しい環境に飛び込んで何事も経験してみることも大切なと思います。③

チェックの起源

Origin of the check

模様は、その土地ならではの想いが込められてデザインが生まれる。

今回は模様の中でも歴史の中で多く発展してきたチェックの源について探ってみた。

普段何気なく目にしているチェック。

実は何百年も前から使用されていた模様かもしれない。



アーガイル

伝統的なスタイルに見られる代表的なひし形格子。スコットランド西武沿岸のアーガイル地方に因む名前で、アーガイルチェックはこの地方を収めた名門貴族、アーガイル公爵家の氏族であるキャンベル一族のクラン・タータンをニットの編み模様にしたもの



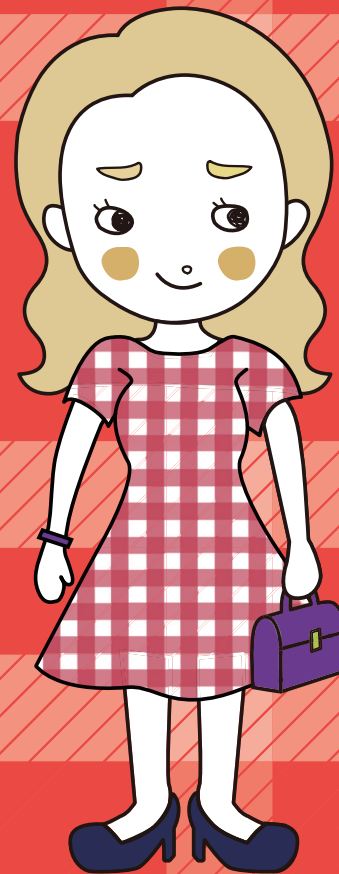
市松模様

2色の正方形を交互に配した格子模様。江戸時代の歌舞伎役者の初代佐野川市松が、白と紺の正方形を交互に配した袴をはいたところ評判になり、着物の柄として流行したのが始まり。英語のチェッカーボード・チェック、仏語のダミエと同じ柄である。



タータン・チェック

スコットランドのハイランド地方で生まれた伝統的な格子柄。氏族や一族などを象徴する独自の格子柄として発達している。スコットランドではキルト、アリスドなどの民族衣装に使われてきた。現在は英国調を代表とする柄として、ファッションに幅広く用いられている。



ギンガム・チェック

フランスの地方であるガンガンにおいて、木綿で作られていたことからこの名前がつけられた。単純な平織りの構造で等幅格子模様。50's 60's を代表する柄といえる。



クレイジー・マドラス

色々な柄をツギハギした生地のもので、「パッチマドラス」ともいうパッチワークマドラスのこと。1960s 年代のアイビーファッションの流行と共に浮上した柄で、アイビートrendをリードしていた「VAN」創業者の石塚謙介が命名して販売。



ハウンドトゥース

格子ひとつひとつの柄が獐犬 (hound) の牙 (tooth) に似ていることからこの名前がつけられた。日本では「千鳥格子」、フランスでは「ピエ・ドゥ・ブール」という。大柄になるとジアント・ハウンドトゥースという名前に変化する。

「源」 点回帰

もし世界から布が消えたら

私達の暮らしはどう変化するだろうか

どんなものを身に纏うだろう

日常の中に柔らかさはあるのだろうか

柔らかさに触れられない世界はどんな景色なのだろう

私達の世界に溢れているテキスタイルを

感じ取ろう





TORIO
大阪発、ちよっぴりエッチでポップなアンダーウェア・ボクサーパンツブランド。某キャラクターのパロディーや、前開き部分の中にまでデザインを施したり、暗闇で光ったり、唯一無二の楽しいデザインを生み出しています。そのニッチなセンスから、お笑い芸人にも愛用者多数。生地はコットン、ポリエステル、ナイロン、レーヨン、ポリウレタンと幅広く、好みの素材を選べます。また、レディースもラインナップがあり、お揃いでも楽しめます。箱やケースもチロルチョコ型やクリアポーチなどこだわっており、おもちゃのように可愛いので、プレゼントでも自分用でもワクワクします。



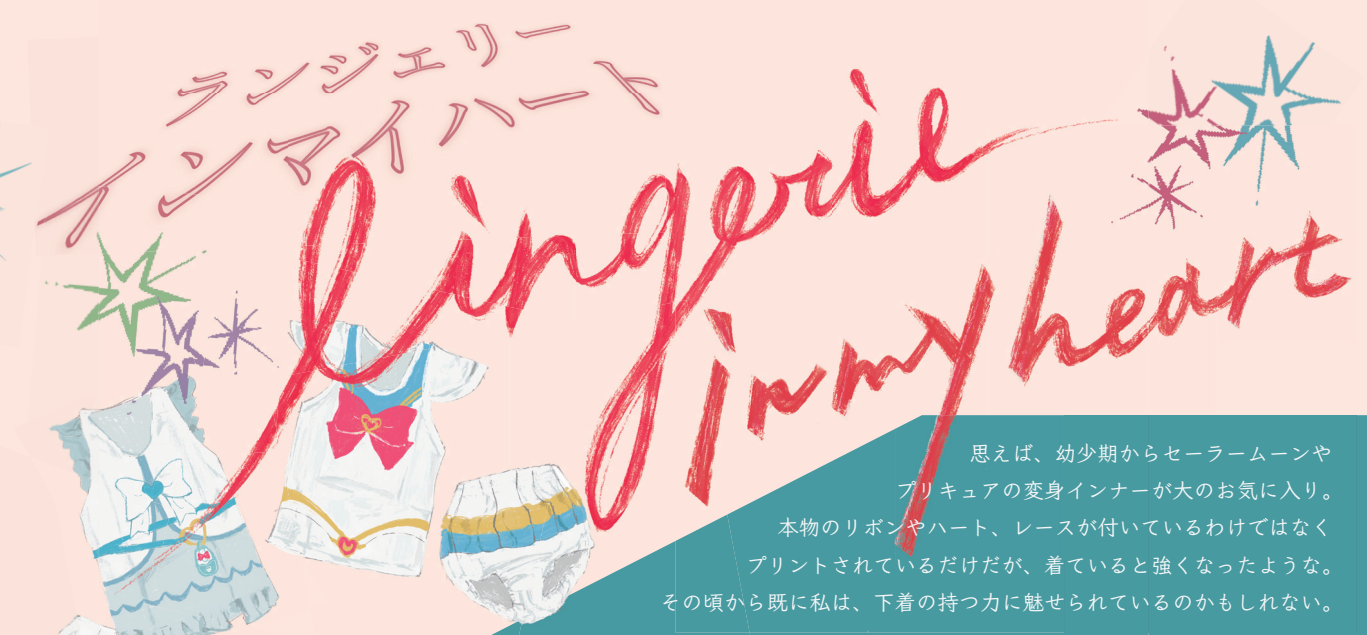
STUDIO PIA

新進気鋭のブランド

右のイラストにも描かれている、KACHO-GA シリーズは日本の伝統的な花鳥画と漆器からインスピレーションを受けたりと、職人が丁寧に作っているまさにランジェリーのアート。ゴールドの絵画的な刺繍に、漆を彷彿とさせる漆黒のシルクサテンを贅沢にあしらった一着。そして、左のフロラボディーツは、母なる自然へのラブレターというコンセプト。素材は環境に優しいオーガニックシルクなどを使用。自然を纏い植物の力を感じてというメッセージが込められ、鮮やかな花の庭が体を包み込みます。日常にスパイスを加えてくれるような一度は手にしたい最高級ランジェリーブランドです。

±11%

月に一度必ず女性に訪れる生理、憂鬱な一週間。手に取るのはお気に入りのランジェリーではなく、まいっかと諦めのサニタリーショーツ。年に数回しか着ない水着を選ぶワクワク感や、普段のお気に入りにランジェリーを選ぶ充実感、いつもと変わらず楽しい気分です。サニタリーランジェリーも選べれば、落ち込みがちな月経も少しは楽しく変わるかもしれません。そんなコンセプトのファッション性と機能性を兼ね備えたサニタリーブランドです。発起人は、ファッションやインテリアのスタイリストとして活躍するスドゥキョウコ氏。ブランド名「±11%」は、女性の「Kirei」と「Kawaii」に「11%」する存在でありたいという想いが込められています。一見水着のようなデザインなのに、生理ショーツ用の生地がしっかり備えられ、胸の張りにも対応出来るストレッチペロア生地を使用。ねじりのあるデザインにする事でトップを隠し透けづらいデザインに。いつもと変わらない喜びを与えます。



例えば、幼少期からセーラームーンやプリキュアの変身インナーが大のお気に入り。本物のリボンやハート、レースが付いているわけではなくプリントされているだけだが、着ていると強くなったような。その頃から既に私は、下着の持つ力に魅せられているのかもしれない。

身体が一番内側に纏うテキスタイル、それが下着。みなさん、どのようなこだわりを持っていますか？

「勝負下着」という言葉があるように、自分しかあまり見ないものだからこそ、お守りのような存在でもあるかもしれない。キチッとした格好をしなければいけないときも、下着を遊ばせて気分を上げることだってできる。

私たちの原動力となるような一番近い源のテキスタイルだと思います。

誰かのためではなく、自分自身が心地よく満たされる。

私達の身体は誰もが美しく、その美しさを引き出せるような、ありのままの自分を認め愛せる下着選びができれば最高ですよ。

そして、数々の格好良い美しいブランドを知れば知るほど皮膚に纏うアートの感じます。

ときめきや自信をもたらすランジェリー、アンダーウェア。堂々と服のように装う新たなブランドも登場したり身に着けることでいつもの服がより魅力的になることも。

家で過ごすことも多くなった時代だからこそ新たな下着を手にとることも良いかもしれません。



下着の歴史



令和の今、快適性がらビジュアルまで多種多様な下着が揃っています。

しかし、大昔に遡ると下着をこたわるなんて概念はおろか、江戸時代によりやく肌着を身に着けるという習慣が浸透し始めます。

ですがそれも、湯文字（ゆもじ）と呼ばれる膝下の長さの巻きスカートのような布を紐で腰に巻きつけるものでした。うっかり裾が開かないよう、四カ所におもりが入っていたとか。

素材は木綿、色は白だったり年配女性はあざき色が多かったそうです。

さらに芸者さんなどは、湯文字の上に蹴出（けだし）というものを着こなしていました。今というペチコートで、歩く際に湯文字が見えてしまうのを防ぎ、着物の裾さばきを良くします。

長さは足首まであり、むしろ見られることを意識した華やかな柄や色で、女性の足元を色っぽく見せるのに一役買っていました。この時代からお洒落を意識した下着のようなものがあったのは、素敵ですね。そして時代を跨ぎ、昭和、それまでショーツは着物に下着のラインが浮き出すため、下品だとされていました。しかし、和装から洋装への大転換！

なので、日本人がランジェリーと呼ばれるものを手に取りだしてまだ百年も経っていないのです。



知った 下着の アタマ

✓ 下着の選び方

身体に合っていないものは、補正しているつもりが逆効果を
生んでしまいます。プロにフィッティングしてもらったり、
自分のサイズを知ると、こんなに着心地が良くなりストレス
フリーなのか！と実感すると思います。

ブラジャーの後ろのホック、三段式になっているものがあり
ますよね。フィッターさんが居れば問題ないのですが、新調
するとき、ホックの一番外側がびつたりりのサイズを買いま
しょう。理由を説明すると同じアンダーでもメーカーによ
り、多少の差があります。着け心地もしっかりホールド感の
あるものが好きだったり、締め付け感がないものが好きだっ
たり個人差もあります。ブラのホックが複数あると「遊び」
ができて適応範囲が広がるのも理由の一つ。でももう一つ、
大きな理由、それは長く使うためです。複数ホックがある
ことで、ブラジャーの寿命が延びるので。長く使うため
には外側のホックでちょうどいいサイズを選びます。一番アン
ダーが大きい状態で、アンダーは使ううちに伸びてきます。
手を上にあげたとき、なんとなくずり上がっていると伸びて
きた証。こうなると、ホックを一つ内側にずらします。これ
でフィット感が戻ります。時間の経過とともにホックを変え
ていき、一番奥も緩ければ買い替え時。これを知っておけば
タイミングも分かりやすく、きちんと長く愛用できます。

Ingerie is my talk?

私の好きな台詞。

「コンビニ行くけど何かいる？」「ちょっとお茶し
て帰ろう」。他にもたくさんあるけれど、日常の
ふとしたキュンは意外と大切。

こだわって選んだ柔軟剤、お気に入りのヘアオイ
ル、癒してくれる保湿クリーム、帰り道買ってし
まったコンビニスイーツ。
ぜんぶぜんぶ、溶けて私になっていく。

でも、ニページ前で話したランジェリーの歴史、
はじめはキュンどころではなかった。
けれど、今ここまで進化する多種多彩の美しい下
着たち。ランジェリーの躍進に奮起した先代たち
は、きっと歓喜してくれているだろう。

下着云々より、自分の容姿なんて愛せないこと
だらけよ、と言う人がいるかもしれない。
無理に愛さなくたっていい。
涙を流したくても、こぼせない人へ捧ぐ。

なりたいたいものは多くあっても、私は私でしかない。
私に向けられた明日は、私しか行く人はない。
自分の源を語るのは時間がかかるかもしれない。

✓ お手入れ

つついワイヤー入りブラジャーをネットに入れて洗濯機
に放り込んでしまうことはありませんか？ブラジャーの正
しい洗いや型崩れしにくい干し方、忙しく過ごす女性た
ちにとって大変だと思えます。しかしせっかく購入したお
気に入りのブラジャーは、少しでも長く使いたいですよね。
一般的にブラジャーの寿命は約100回の着用とされています。
ということは、洗濯する回数も同じ100回ほどと考えら
れます。ただ、ブラジャーにはレースやワイヤーなど繊細
なパーツも多いため、洗い方一つで寿命が変わります。

1

洗面器などに小さじ一杯
程の洗剤を入れぬるま湯
で泡立てます。

2

数分つけ置きした後、
汚れが気になれば、押
し洗い、ふり洗いし、
しっかりすすぎます。

3

タオルで優しく押さえ、
水気をとりまします。

4

洗い終わったらすぐにワイ
ヤーやシワなど、形を整
え風通りの良い日陰に
干します。



No!

✓ 役目を終えたランジェリーの行方

リサイクルで地球の資源として新しく生まれ変わる取り組
みがあります。下着といえは！のワコールでは、メーカー
に関係なく不用品ブラジャーを回収し、ブラは捨てにくい
というお悩みも解決します。紙袋などにいれ店頭スタッフ
に渡すと、袋のまま開封せず回収してくれます。そのまま
ワコールを経由し、B2Cの提携リサイクル工場へ運ばれ、
生活雑貨などのパーツに生まれ変わります。大切に使用
いたものがこうして役に立つのはとても嬉しいですね。ゼ
ひタンスの肥やしになっているものを持って行ってみては
いかがでしょうか。

BRA Recycle!



けれど

それぞれに審美眼という
ダイヤモンドを持っている。
何が美しいかを探し、考え、
それを愛することができる。

その審美眼を相棒に
つくたいものを
「創ろう」
「造ろう」
「作ろう」
美の基準なんてない。
あなたを磨けばいい。

しかし我々は
悩み、惑わされ、嘆く。

自分のここがみんなと違う。
足並みを揃えないといけない。
出る杭はうたれる。

みんなって誰だろう。

美しい顔をランキング、
都道府県の魅力度を比較、
世の中 無意味な順位付け。
なぜ目に見えたものにしたいのか。

そんなもの、一蹴すればいい。

自分のそこが違って良い。
足並みは揃うときに揃えばいい。
出た杭はのびそう。

みんなは空虚につくられた架空だ。
そんなもの、つくらなくていい。
そんなことより

あなたにしかつけないものがある。

私たちはダイヤモンドを持っている。
磨けば磨くほど輝くダイヤモンドを。

「ミナモト」は導いている。



mA の *Sponsor* になりませんか？

mAでは毎号、協賛企業・団体様の広告の掲載、
編集部での広告制作のご依頼も承っております。
また随時設置場所も募集しております。

ご興味いただけましたら下記までご連絡ください。
詳細の資料をお送り致します。

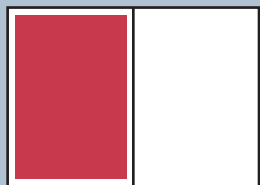
他、ご相談・ご質問もお気軽にお問い合わせください。

ma.freemagazine@gmail.com

対象：アート・デザイン分野に興味のある方、学生、団体

配布：全国の大学、予備校、ギャラリー、ショップ、百貨店 etc.

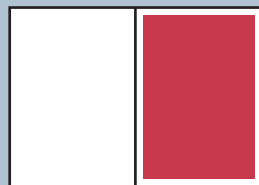
【広告サイズ一覧】



中表紙 / B5



中見開きページ / B4



中ページ / B5



裏表紙 / B5

【設置場所】

●商業施設

- ・渋谷ヒカリエ 8 F
- ・Bunkamura ブックショップ
- ・NADiffmodern
- ・Juana de Arco 表参道店
- ・Bookshop LIBRERIA
- ・TOTO ギャラリー 間 2F
- ・Bookshop TOTO
- ・桂屋ファイングッズ株式会社
- ・日本橋みやこ染
- ・ワークショップスペース somenova

●フリーペーパー専門店

- ・ONLY FREE PAPER
- ・無印良品 岡山 ロッツ店
- ・MUJI BOOKS ヒカゴブレイス店
- ・只本屋

●ギャラリー

- ・デザインフェスタギャラリー
- ・spiral 青山
- ・ギンザ・グラフィック・ギャラリー
- ・クリエーションギャラリー G8
- ・ガーディアン・ガーデン

●大学

- ・東京藝術大学
- ・多摩美術大学
- ・八王子キャンパス / 上野毛キャンパス
- ・武蔵野美術大学
- ・鷹の台ホール / 図書館リーフレット棚
- ・東京造形大学
- ・女子美術大学
- ・大阪産業大学

他、各種予備校・商業施設等



K D S

KAJIHARA
DESIGN
STUDIO

KAJIHARA DESIGN STUDIO は、日本の伝統技術を活用した新しい物作りや、価値観を創造するブランディングを通して、テキスタイルの持つ豊かな可能性を暮らしのなかに提案していきます。

web site : <http://www.kajihara-design.com>



COQ
textile
breathe with creation

COQ textile [コキユウ テキスタイル] は、日本の産地の技術を活かしたテキスタイルから生み出す、ものづくりの魅力とこだわりが込められたファッション雑貨を展開しています。テキスタイルを通して、自然から感じる曖昧で繊細な、だけど心が揺さぶられる瞬間の高揚を、テレパシーのように伝えていきたいと思います。



Designed by KDS

web site : <http://coq-textile.jp/>

The editor's note

発行日 2021年7月

編集長 桐山めぐみ

編集 井上玄太
上原望乃叶
梅宮青
隈部智子
小島平莉
竹口美優
西村知紗
秦萌恵
馬場優那
日比野留花
藤田波輝
松岡有香
山崎萌子

印刷 プリンティングイン株式会社

Contact

【Twitter】 @ma_freemagazine

【Instagram】 @ma.freemagazine

【Facebook】 <https://m.facebook.com/ma.freemagazine>

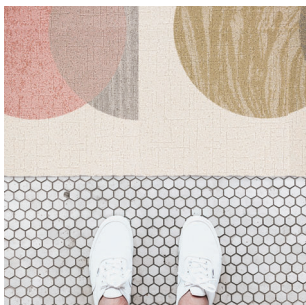
【HP】 <https://mafreemagazine.wixsite.com>

【Mail】 ma.freemagazine@gmail.com

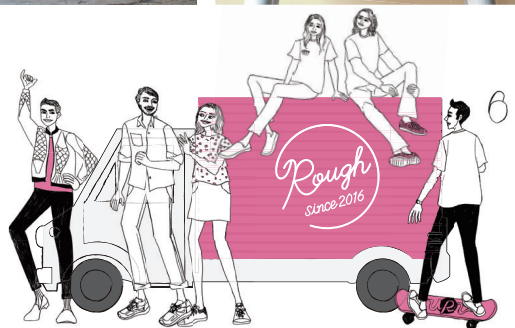
ご意見、ご感想ありましたらぜひご連絡ください。
SNSも随時更新しております。 よろしくお願ひします！



ファブリックブランド rough では、新生活のスタートに欠かせないカーテンやラグ、クッションなどのインテリアアイテムや、プチギフトにぴったりのポーチなどをご用意しています。お気に入りのスタイルを見つけてください。



Please check our
instagram!
@rough_since_2016



online store
<https://rough30.thebase.in/>

Fabric of Tomorrow

Ultrafabrics are future-forward, premium materials, designed to do better. Focused on greener solutions and lasting durability, Ultrafabrics is the materials of tomorrow, continuously innovating with people and planet in mind.

Touch the Future®



Ultrafabrics Inc.はJASDAQ 上場企業であるウルトラファブリックス・ホールディングス株式会社のグループ会社です。
Ultrafabrics Inc.が販売しているUltraleather®等の主力商品は、同じくグループ会社である第一化成株式会社が製造しています。

ultrafabricsinc.com





壁があるから、楽しくなる。

住まいの壁も、立ちはだかる壁も、もっと楽しめる未来へ。

日本の壁に、もっと選択肢を。

これまで日本の建物に張られた壁紙はあまりにも画一的で
入居者には選択する自由さえ与えられないことが一般的でした。

テシードでは、一人ひとりのお客様の個性に合った

多彩な壁紙のご提供を通じて、

みんなが幸せになれるような多様な社会を築き上げるために
活動をしています。



TECIDO

www.tecido.co.jp

HPやSNSで輸入壁紙の魅力や最新情報を発信しています。
東京ショールームのご予約も受け付けています。



公式サイト



Instagram

 [tecido_wallpater](https://www.instagram.com/tecido_wallpater)

 [TECIDOjp](https://twitter.com/TECIDOjp)

 [tecido.co.jp](https://www.facebook.com/tecido.co.jp)

 [tecido_tecido](https://www.pinterest.com/tecido_tecido)

 株式会社テシード

BN
WALLS

Van
Gogh
Museum
Amsterdam

ヴァン・ゴッホミュージアムとオランダの壁紙ブランド BN WALLS のコラボレーション壁紙。
「花咲くアーモンドの木の枝」がモチーフ。(The Bloominghouse7 17140)



Let's do it together!!

一緒に mA を作りませんか？

今年も編集部員を募集しています 気軽に DM などお待ちしております

HP



Instagram



Twitter

